

第46回日本のうたごえ全国協議会総会

方針

はじめに

東日本大震災と東電福島第1原発事故から2年になろうとしている。今なお36万人が避難生活を続けている。その中で、福島県では16万人が避難を強いられ、福島に住む若いお母さんは、「子どもは、県外から贈られた落ち葉で遊んでいます」と語っている。

大震災からの復旧・復興、原発ゼロをめざすとりくみが引き続き全国で展開されてきた。とりわけ、金曜日ごとの首相官邸前や電力会社前での行動など、「なくそう原発」の行動は、こうした行動に初めて参加する人を広げながら、全国で、様々に工夫され粘り強くすすめられている。

また、消費税増税による生活の破壊、拡大する貧困と格差や雇用制度の改悪による非正規労働者の増大、環太平洋連携協定（TPP）への参加、オスプレイの配備と沖縄の新基地建設などに対し、それらを許さな

いたたかいは幅広い共同でとりくまれている。

12月に行われた衆議院選挙は、政権の交代による政治への期待が裏切られたことと大政党に有利な選挙制度のもと、憲法を変えようという勢力が多数を占めることになった。今、憲法9条に焦点をあて、その改定へのスケジュールを突きすすもうとしている。また、景気回復をかかげた大規模公共事業の復活、TPPへの参加、原発の再稼動と新設、沖

縄での新基地建設など多くの国民の願いに反する新たな動きがうまれて

いる。

これらの、多数の声を無視した政治の強行は、国民の怒りや反対行動を呼び起こし、新しい政治や社会のあり方を根本から問いただす大きなうねりに発展するに違いない。また9条の改定やアジアで行った侵略戦争での非人道的な行為への反省を撤回する動きに対し、平和を願うアジアと世界の国々から怒りと不信の声が上がっている。

人間の尊厳を取り戻し、人間らしく生きていける日々の生活や社会が切実に求められている中で、「心つなごう」（山上茂典作詞・作曲）のうたごえが様々な集まりで歌い交わされ、人々の思いを結びあう上で大きな力になってきた。日本のうたごえ全国交流会＝広島は、被災者に心を寄せ、真の震災復興へ、原発のない社会へと向かう運動の力になることを確かめ合い、3日間延べ9000人の参加で大きく成功した。

新しい政治への模索が様々な形で探求されている中で、文化のもつ役割りはいつそう大きくなっている。マスメディアの巨大な影響力のもとで、われわれの側からマスメディアに働きかける運動、日々の生活において人間としての感性をより豊かにしていく文化の創造と普及が求められている。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」と日本国憲法前文は高らかに宣言している。「文化は戦争の抑止力である」と池辺晋一郎さんは述べている。

憲法が掲げる自由と民主主義、平和的生存権などを保障した国づくりへ、今憲法をまもり生かしていくことが急務になっており、その中で人々の心をつなぐ文化や音楽の力を発揮していきたい。

2012年度 活動のまとめ

方針(へ1)演奏・普及活動を旺盛に展開し、平和憲法・九条をまもりい
がす、共に生きる町づくり・地域づくりのうたごえを広げる。

〔演奏・普及活動〕

〔東日本大震災被災地への支援と復興・再生、原発ゼロの社会をめざす
うたごえ〕

2012年度は「震災復興・原発なくせ」の国民的な行動が高揚する
中で、うたごえは被災地でも、全国各地でも旺盛な創作活動、演奏普及活
動を繰り広げた。

震災被災地のうたごえは、仮設住宅でのうたごえ会を継続して開催し、
被災者に喜ばれ、「生きる力のうたごえ」を実感でき、その活動は全国の
仲間へ大きな勇気と活力を与えている。

全国からも直接被災地を訪問し、支援活動やうたを届ける活動、各地
に避難している被災者と共に歌う活動が行われている。また、チャリテ
ィーコンサートや、演奏会のプログラムで被災地に心を寄せうたう活動
が数多く繰り広げられ、「心つなごう」をはじめ多くの歌が共感を得てい
る。

原発なくせのうたごえは、公募入選した作品をはじめ、全国で数多く
の作品が生み出されうたい広げられた。入選詞「風よ ふるさとよ」(き
むらいずみ作詞)は、多くの創り手により作品化され演奏された。「つづ
てソング」(和合亮一詩・新実徳英作曲)も全国で歌われている。これまで
歌ってきた歌も新しい力をもって歌われる経験も積み重ねてきた。

2011年3月11日を経て、私たちはこれまで以上に「誰に向かっ
て、誰と共に、何を、どう歌うか」を真剣に問いかけ音楽に向きあった。

ひとつの言葉、ひとつのメロディー、ひとつのハーモニーを大切にしな
がら、聞き手と想いを共有できる音楽創造と演奏普及の積み重ねがより
いっそう求められている。

消費税増税、TPP参加、社会保障削減など、国民の生活を苦しめる
攻撃が強まる中、それを許さない世論と行動が広がった。うたごえも各
地の集会、行動に積極的に参加し、闘いの力になってきた。「冗談じゃな
い税」(田山文武作詞・大熊啓作曲)など新しい歌も生み出され好評。

オスプレイ配備反対の行動では10万人が集まった沖縄県民大会をは
じめ各地の集会でうたごえを響かせた。この課題で多くの人と歌い交わ
せる作品が求められている。

各地の9条の会の企画にうたごえも加わり、集会の成功の力となっ
ている経験が積み重ねられた。

核兵器廃絶を実現するとりくみでもうたごえは大きな役割を果たして
いる。3・1ビキニデー、国民平和大行進、原水爆禁止世界大会などで
うたごえを響かせると共に、企画・製作にも積極的に関わり成功のため
に力を尽くした。

全国交流会と日程が重なった日本平和大会でも、東京のうたごえが関
わる事ができた。

日本母親大会(新潟)、日本高齢者大会(香川)、きょうされん全国大
会(福井)、全国障害者問題研究会全国大会(広島)などで開催地のうた
ごえが文化企画に関わり、成功の一翼を担うと共に、都道府県や地域の
取り組みにも積極的に関わり共同を広げた。

〔荒木栄没50年〕

数々の名曲を残して38歳の若さで亡くなった荒木栄の没50年の今
年度は、各地の祭典、演奏会で荒木作品が取り上げられ演奏された。そ
れは、「懐かしむ」のではなく、今の時代にもしっかりと生きる作品として、

また、その創作に向かう精神を引き継ぐものとして、「学ぶ」取り組みと共に取り上げられたのが特徴である。

〈時代に目を向け市民と共に多彩な音楽会・演奏会〉

日常的な演奏普及活動とあわせて、各地で音楽会・演奏会が企画され、その多くが「共にうたう合唱団」のような市民に呼びかけた企画を伴っている。音楽家、音楽愛好家との協力共同も広がり、演奏創造面での前進も見られた。

周年記念企画も多く、これまで運動を支えてくれた人々と共に、次の時代へつなぐ意欲が表れている。

国鉄のうたごえに所属するサークル・合唱団が長年の闘争支援への感謝を込めて各地で演奏会を開催、地域や働く仲間、闘う仲間との連帯で成功させた。

「みんなうたう会・うたごえ喫茶」

「うたいたい」「集いたい」「つながりたい」、そんな思いが重なって、うたう会・うたごえ喫茶・うたごえ酒場は全国で大盛況である。

声を出す、自らを表現する、歌に思いを重ねる、たくさんの人と声を合わせる：これらの行為が人の営みにとってとても大切であることが、「生きる」ことさえ不自由なこの時代に改めて見直されている。

各地のサークル・合唱団は、主催する取り組みとともに、うたごえリーダー、伴奏、運営で他団体とも協力しながら歌う場をつくってきた。

はばひろい参加層のリクエストにこたえられる歌詞集「うたごえ喫茶ソングブック828」はどこでも歓迎され、バイナード形式の伴奏集も使いやすいと伴奏者に大好評。「この歌集があるのなら」と新しいうたごえ喫茶が生まれるなど広がり貢献している。

ここでつながった参加者が、うたごえ新聞を購読し、サークル・合唱団に入会したり、新たなサークルが生まれるきっかけになるなど、うた

ごえネットワークの拡大強化の点でも大きな力になっている。

「創作活動」

2012年の創作活動は、「原発ゼロの社会をめざすうたづくり」の呼びかけに応えた全国の創り手たちの意欲的などりくみで始まった。短期間に数多くの詞と曲が寄せられ、すべての応募作品がHP上で公開された。大震災と原発事故により今なお続く苦しみやますます拡大する怒りの中で、入選作だけでなく多くの作品が様々な集会やコンサートで歌われ、練られていった。

この取り組みと連動させ、震災・原発の渦中にある東北（山形・蔵王）で開催した全国創作合宿は創作活動を一層深めるものとなった。原発ゼロの曲募集に関わった多くの参加者が集い、「その歌がどのように創られたのか」できた曲についての作者を中心とした講座が参加者の要求にマッチしたこと、特に福島からの創り手の参加により、「当事者」と「そうでない者」の思いの違いを認め合いながらも一緒になって歌づくりに取り組み始めたこと、そして「何をどうつくり表現するのか」が大変豊かに学び交流されたこと、山形はじめ東北のうたごえからの参加、若い新しい書き手が参加し、表現の方法にも広がり生まれたことなど、多くの大事な前進をした合宿となった。

全国交流会でのオリジナルコンサートでは、発表作品の1/3が震災や原発をテーマにした作品で、なかでも原発ゼロのうた募集作品や創作合宿で生まれた作品が各地でおおいに歌われ、その結果集まってきたことは近年にないことだった。

また、前年よりもさらに深まりを感じる作品が増えた。演奏の密度も高く、創られたままで終わることも多かった今までは違っていた。作品づくりの姿勢が変わってきたことを反映し、震災や原発をうたったものだけでなく、暮らしの中からテーマも曲も優れた作品が寄せられている。今回初めてオリジナルコンサートの録音をネット上で公開したが、

「オリジナルソングブック」の普及と合わせ創作曲を歌い広げる活動がさらに活発になる事が期待される。

〔器楽の活動〕

全国交流会で「器楽・バンド交流の部」を設け、アコーディオン、オカリナ、リコーダー、ハーモニカ、金管アンサンブルなどが生き生きと交流できた。

多彩で、豊かな音楽づくりとはばひろい音楽愛好家とつながるこの分野の活動の大切さを確認した。

日本アコーディオン協会（JAA）はスウェーデンからラースホルム氏を迎え、東北復興支援のサマーセミナー、コンサートを仙台を始め各地で開催、被災地にアコーディオンをおくる活動と共にアコーディオンの魅力を普及した。うたごえのアコーディオンサークルや合唱団も協力しての取り組みとなった。

方針（2）合唱発表会を地方、産業別、全国とも活発にし、歌う活動の実際を交流し、学び合い、創造の前進をめざす場にする。

〔合唱発表会・交流会〕

各地の合唱発表会・交流会は沖縄が40年ぶりの県祭典の中で6団体の合唱はじめ器楽、指笛、独唱など多彩な演奏交流が行われた。全国交流会の特徴を活かし、多彩な交流が実現した。愛知は県の合唱発表会開催地を持ち回りにしながら、地域合唱発表会開催地を増やし、参加団体の大幅増につなげている。

産業別合唱発表会は9産業別で開催。参加団体数も教育、自治体で大きく増やし、全体としても維持している。

全国合唱発表会への推薦はしない「交流会」もあわせ、合唱発表会参

加団体数は1400団体となり年間目標を達成した。未開催県については、個別の条件も勘案しながら適切な援助をプロックの協力も得ながら行う必要がある。

方針（3）地方祭典の全都道府県開催をめざし、日本のうたごえ祭典の長期開催計画を持つ。

〔日本のうたごえ全国交流会 広島〕

「被災地に心寄せて すべてをいのちが輝く 風よ興れ」と開催した日本のうたごえ全国交流会 広島は、全国合唱発表会・交流会8部門、オリジナルコンサートに5500人、ピースウェーブコンサート2000人（出演者含む）、うたごえ喫茶フェスティバル1500人の9000人の参加者で成功した。

当初は福島県郡山市での開催を準備していたが、東電福島第一原発の事故の大きな影響の中で、福島のうたごえの意見も聞きながら別開催地を検討するに至った。

広島で、当初予定していた日程で、会場間の移動も比較的好条件の会場を確保することができ、急遽広島開催を決定するに至った。広島のうたごえと充分議論を深める時間が少ない中、開催を了承し、成功のために力を発揮していただいた広島のうたごえのみなさん、参加されたみなさん、運営にあたられたみなさん、審査委員、出演者、スタッフのみなさんに心から感謝したい。

〈全国合唱発表会・オリジナルコンサート〉

全国合唱発表会は大音楽会を開催しない全国交流会であることと、会場、日程の好条件を活かし、思い切って参加団体を増やす事を重視した。

合唱交流の部を3回に分けて開催、器楽・バンド、郷土芸能の交流の部を設け、3日間にわたりうたごえ喫茶フェスティバルを開催した。

オリジナルコンサートとあわせ350団体が参加、全国初参加団体は30団体を超え、多くの団体に参加してもらおうという目的は達成された。

今年開催した、器楽・バンド交流の部、郷土芸能交流の部は、従来、合唱中心で行ってきた全国合唱発表会の参加ジャンルを広げ、これまで全国への推薦対象外だった団体の全国出場への門戸を広げ、各地の合唱発表会・交流会への参加団体も多彩になった。

運営面では開催地広島はうたごえ協議会が県労連や女性団体、文団連などの協力も得ながら全面的に関わり、関西ブロックの大阪、京都、奈良、兵庫の協議会が部門毎にスタッフを配置、タイトなスケジュールの中でも大きな混乱もなくすすめられた。

当初の予定よりも参加団体が増えたことにより、終了時間の延長や、講師・審査委員の過重な負担などが起こった。また、到着時間、出発時間の都合、複数部門同時開催の条件などから、部門によつては聴衆が少なかったり、演奏中の移動、携帯電話の着信音などマナーの点でも、聞き合い、学びあう姿勢では少なくない課題を残した。

うたごえ喫茶フェスティバルは全国のうたごえ喫茶の活況を反映して、連日大盛況で、音響設備、プロジェクトの活用、充実した伴奏陣の配置、歌集の活用など運営のノウハウを学びあえる場ともなった。広島のうちごえの「賄い隊」も大奮闘、スペシャルなゲストの飛び入りもあり、参加者からは大好評であった。

〈Peace Wave Concert〉

大音楽会は開催しないものの、3・11を経て全国でうたい交わされている復興への思い、原発のない社会への思い、荒木栄没50年の企画などを反映し、うたごえの創造的到達を確認する場として「音楽会」の開催を決め、1995年（被爆50年）以来広島で行われてきた「Peace Wave Concert」の名称をつけた。

企画については、企画プロジェクト（責任者・高田龍治）を立ち上げ検討を重ねた。

郷土芸能で広島と東北を結ぶオープニング、広島のうちごえと共に育

ってきた作業所で働く仲間たちと広島ジュニアマリンバンサンブルによる歓迎の思いを込めたプログラム。広島からの発信を歌い上げた日本のうたごえ合唱団、全国で歌い広げてきた「心つなごう」のシングアウト、そしてコンサート特別合唱団による「風よ ふるさとよ」（きむらいずみ作詞、武義和作曲）、「人間の歌」（山ノ木竹志作詞・作曲、吉田桂子編曲）が第1部を締めくくった。

荒木栄没50年の企画は、全国合同による女声合唱「星よお前は」「五月の歌」、男声合唱「地底のうた」を、各地で取り上げ歌い交わしてきた成果を集めての演奏となった。

ゲストのナターシャ・グジー&井上鑑のコラボレーションも、広島・福島・ウクライナを結ぶ深い思いを静かに伝えた。

この間、広島のうちごえが積み重ねてきた企画「共に生きる街合唱団」の演奏は、全国からの参加も募り、この町、この故郷に生きる思いを歌い上げ、創立65周年記念日本のうたごえ祭典・おおさか（以下、おおさか祭典）へバトンを手渡す企画となった。

メイン司会者のフリーアナウンサー・丸子ようこさんは、これまでの地元での取り組みと一緒に進めてきた経験も活かし、企画の意図を良く理解しながら舞台の進行をすすめる大きな役割を果たした。

2000人の客席を満席に出来なかったことや、十分な運営体制を保証できなかったこと、歌い手組織を十分にやりきれなかった企画があったことなど課題も残したが、全体としては、今、この地からうたごえ発の思いを届ける音楽会として大きく成功した。

「地方祭典」

沖縄では40年ぶりのうたごえ祭典を開催し、協議会の再建にむけて足場をつくった。

兵庫も9年ぶりの県祭典を「被災地にエールを、原発に怒りを、いのち、平和、明日への希望をうたい交わそう」をかがげ、「祭典」ならではの

の規模と音楽創造で大きく成功した。

北海道祭典は国鉄の全国祭典とあわせて旭川で開催。国鉄闘争支援ありがとうコンサート、ジョイントの大音楽会、2つの合唱発表会と密度の濃い日程の中、道内持ち回りで開催してきた経験や、継続して行われている講習会、創作合宿などの積み重ね、音楽家との共同の取り組みの中で成功した。国鉄のうたごえによるたたかひの中で培われた働くものの音楽と、地域に根を張りうたい広げてきた北海道のうたごえのそれぞれの特色と、合同することで産み出された充実した音楽は延べ2000人の参加者に深く響いた。

福岡・大牟田で開催された九州のうたごえ祭典は、荒木栄の没50年を記念するにふさわしい規模と、荒木に学び、荒木をうたい、次へつなげる内容で大成功した。開催地大牟田のうたごえの地域や職場への働きかけにより、新しい参加者の拡大、とりわけ若い人たちの参加は参加者を大きく励ました。

長野は信濃のうたごえ祭典を佐久市で開催。長野県厚生連のうたごえの若いメンバーも、県や地域の実行委員会に加わり新しい連帯も生まれた。

山形祭典も46回目のうたごえ祭典を開催、協議会再建も視野に入れたうたごえ連絡会を中心にした実行委員会でも成功させた。

京都の13地域での地域祭典を府民音楽祭の連帯した成功につなげ、全国交流会へと、一つの流れにしている点は学びたい。

東京・足立でも連続して地域祭典が開催され、地域の文化活動として定着している。

「産業別、階層別祭典・交流会・合唱発表会」

教育のうたごえは、「全国教育のうたごえ交流会ニみやぎ」を町の3分の2が津波の被害に遭った七ヶ浜町の国際村ホール他で開催。復興に取り組む地元の子どもたちの太鼓やミュージカル、被災地の教師による

教育実践シンポジウム、近年最高の25団体の参加による合唱発表会など、真の復興へ教育・文化の力を蓄えるものとなった。

自治体のうたごえは、第44回自治体のうたごえ合唱発表会を京都で開催。開催地京都では、合唱発表会参加団体にとどまらない自治体労働者への参加を広げ、全国自治体合同演奏も実現した。

国鉄のうたごえは、国鉄祭典と北海道祭典との合同開催にあたり、分割民営化のたたかひの中で広域配転させられた労働者が北海道に戻り、闘争支援への感謝の思いも含めて成功に向けて大きな力を発揮した。

医療のうたごえは、第28回医療のうたごえ全国祭典を京都で開催。保険医協会、民医連、労働組合、うたごえ協議会などで実行委員会を結成、合唱構成「愛、いのち ささえあつて」をメイン企画に500人を超える参加者で成功した。

郵便のうたごえは、郵便のうたごえ祭典を「国民のための郵政事業を、うたおう、つなごう、未来へ」を掲げ名古屋で開催。

港湾のうたごえは、第49回港湾のうたごえ全国祭典を東京・港区で開催。「港はひとつ、心はひとつ」とうたい交わした。

保育のうたごえは、「うたごえ広がれ 笑顔輝け 全国保育のうたごえ交流会」を大阪で開催。橋下維新の会の思想調査裁判原告団の応援歌や、保育新システム・民営化反対、原発NOなどをうたい交わした。

電通のうたごえは、横浜で第57回電通のうたごえ祭典を開催。地域へも広げた取り組みで延べ1160人の参加を得、「俺たち動けば社会が変わる」とうたい交わされた。

私鉄のうたごえは、私鉄のうたごえ祭典を被災鉄道修復と労働者の権利をうたった合唱構成「明を見つめて」をメインに東京で開催。青年のステージも取り入れた。

青年のうたごえは、全国青年のうたごえ祭典ニ大阪を開催した。（詳細別項）

これら、産業別・階層別の祭典、交流会、合唱発表会は、いずれも開催地のうたごえ協議会や地域のうたごえが共同して取り組んで成功させ

ている。また、被災地からのサークル・合唱団の積極的な参加もあり、企画にも活かされた。作曲が数多く産み出され歌われているのも大きな特徴である。

方針(4) うたごえ運動の魅力・歌の広がりをうたごえ新聞読者でつなぎ、うたごえ発ジャールを一層輝かせ読者拡大につなげる。

『うたごえ新聞・季刊『日本のうたごえ』』

うたごえ新聞は今年度、「震災復興、原発ゼロの社会へ」の特集を各分野識者への取材、現地取材、全国の通信で年間を通して特集した。

震災復興では、被災地宮城のうたごえの県内被災者を励ます仮設住宅うたごえ会や歌づくりの通信、全国からも被災地に支援の歌を届ける活動、チャリティコンサートなど活発な活動を反映して精力的に通信が寄せられた。

東電福島第一原発事故による放射能汚染は、暮らし、ふるさとを奪う被害の実態が深刻化している。そのなかで、文化・歌がどういう力になるか。各界の識者への取材で連続的に特集した。科学者安斎育郎氏の「大事なことは放射能を正しく捉える『過度に恐れず、事態を侮らず、理性的に怖がる』ことを踏まえ、理性的に闘い、持続して事態に関心を持ち続けることが大切。それには文化の力が要る」、フォーク・シンガー笠木透氏の「この事態を未来に伝えることが文化・芸術の仕事、人間としての責務」、労働運動分野から小林雅之氏の「復興の担い手の連帯の歌をはじめ、運動づくりへの示唆となった」。

原発ゼロへの運動では、制服向上委員会会長橋本美香さん、歌づくりでは「つづてソング」が全国で歌われることに呼応して詩人和合亮一氏、作曲家新実徳英氏の登場など出会いを広げた。また、作曲家近藤浩章氏への取材から氏の曲「Home」をうたごえ新聞、合唱曲を季刊「日本のうたごえ」誌に紹介し、氏の指揮での演奏が行われたり、震災復興支

援にもとりくむシェフ塩谷茂樹氏のインタビューから氏を講演に呼ぶなど紙面からの出会いを広げたのも今年の特徴。

この他、作曲家の信長貴富、バレリーナの菅井円加、女優柳川慶子、指揮者工藤俊幸、歌手クミコ、松本市長・医師菅谷昭氏らの登場も運動を広げる示唆となった。

日本航空の不当解雇撤回の闘い支援の特集はじめ、労働者の権利をまもる闘い、沖縄返還40年、オスプレイ配備、米軍基地強化反対の特集。荒木栄没50年の今年、「荒木栄から学ぶ」、盟友神谷国善氏の歌の解説などを特集。

新連載は世界を回るジャーリスト伊藤千尋氏の「世界の歌の現場から」を開始。

読み手は作り手・伝え手。通信活動では、紙面をより身近にするために団で位置づけた青森センター合唱団の通信活動は全国化されたい。

うたごえ新聞を真ん中に語り合う「うた新フォーラム」は、東京・南部、千葉、愛知、京都、大阪で開催。運動をつくる財産として紙面づくり、読者を広げるために開催を広げていく必要がある。

季刊「日本のうたごえ」はNo.155〜158を発行。

No.155は、「原発ゼロの社会へ・歌づくり」応募詞選考、2011年日本のうたごえ祭典ニちばかりの教訓、合唱発表会演奏批評座談会を特集。

No.156は、伊東達也氏の記念講演「原発震災の地 福島からの訴え―きれいな里山を返せ、きれいな海を返せ、当たり前前の労働を返せ、普通の暮らしを返せ―」と全発言の総会特集。

No.157は原発をなくす世界の流れをジャーナリスト伊藤千尋氏の「地球を活かす 市民が創る自然エネルギー」で紹介。また、「安保60年、沖縄返還から40年の年、沖縄から」伊波洋一氏。青年のうたごえメンバーの寄稿での青年特集を組んだ。

No.158は、被災地の教師による震災の現状と復興の教育実践・文化を語るシンポジウム「被災地で教育の再生をどう進めるか」と、音楽評

論家小村公次氏の「うたごえの音楽創造と音楽批評を考える」をメインに特集。シンポジウムはリアルな震災の現状と復興にとりくむ教師の実践が生々しく語られ、震災・原発の実態を知る手引きとなった。また、小村氏の論文は、氏が約20年に渡って聴いた日本のうたごえ・合唱発表会から、その傾向と到達、今求められるものを幅広い音楽評論家等の評も紹介され、貴重な資料となっている。

豊かな運動をつくるために、加盟員全員購読達成は急務である。

方針(5) うたごえ出版物をより多くの人にひろめる。

「事業普及活動」

一枚のCDが心を暖め、一冊の歌集が新しい出会いを創る。うたごえの出版物が演奏普及と合わせて力となっている取り組みが各地で行われた。

従来の「メーデー歌集」を、1年を通して使えるものにと「メーデー・平和歌集」として発売。春闘・メーデーだけではなく、震災から1年経った様々な取り組みや、反(脱)原発の集会などで活用され、前年同様33000部の普及となった。

「原発ゼロの社会をめざすうたづくり」から生まれた「風よ ふるさとよ」を契機に武義和作品集が発売され、各地の演奏で取り上げられた。

11年発売のCD「ふるさとの山影」がきっかけで福祉施設での演奏につながった例や、CD「原やんのうた」の発売とあわせて原田義雄と歌う企画の広がり、「東北の人たちを励ますCDがほしい」との一本の電話から実現したCD「心を紡ぐ東北の民謡」、歌手生活40年の太田真季CD「あなたへのLullaby」など、「今の時代に生きる力の音楽を」のコンセプトに貫かれた出版物が広がっている。

荒木栄没50年企画として、昨年度のDVDブック「労働者作曲家 荒木栄」に続き「改訂増補版 荒木栄作品集全集」を発売、既刊のCD「不

知火」とともに、各地の荒木栄企画で普及され、学習の資料としても活用された。

「うたごえ喫茶ソングブック828」は引き続き好評。実際にうたごえ喫茶に関わっている人たちの協力で作り上げられた結果、大きな文字、はばひろいリクエストに答えられる曲数、伴奏者にとって使いやすい伴奏集(取り外し・見開き可能なバイナード形式、歌いやすいキー、歌詞集のページとの同調、前奏・フルコーラスの歌詞・コードネーム・リズムパターン付など)も含め、うたごえ喫茶主催者がこれまで使っていた歌集をやめて、歌詞集1000部を購入するなど大きな普及につながっている。

インターネットやデータの活用など新たな展開も始まっている。

方針(6) 演奏・創造を進展させ、また、運動の理念を受けつぎ発展させる学習・教育をすすめる。次代を担うリーダーづくりを計画的にすすめる。

「学習・教育活動」

全国講習会は、西日本合唱講習会が京都、東日本合唱講習会は新潟県妙高、また指揮・指導者講習会は例年通り長野県松本で行われた。今回はすべての講習会で日本のうたごえが公募した「反原発ソング」からの曲が採り上げられ、また新実徳英氏の「つぶてソング」(和合亮一詩)も歌われた。事前の準備の中で「今、何が必要か」が論議され、それぞれ特徴的で充実した講習会となった。

西日本は193人の参加者で、関西ブロック会議が受け皿として講習内容を準備し、特別講座に本山秀毅氏、音楽講座に内海緑氏を迎えて、演奏創造における様々なアプローチを学んだ。東日本は初の全国講習会開催を前向きに受けとめ、多彩な内容と講師の検討、東日本大震災とその後、の反原発問題を取り上げる、全国からの参加者をどう歓迎するか、

開催地県内の積極的な参加のための練習会、など早めの準備を積み重ねて、109人の参加者で新鮮な楽しい講習会となった。両講習会とも、日常とは違う大勢で歌う合唱の素晴らしさ、合唱表現の可能性を実感し、今後に更に弾みとなる内容となった。

松本講習会は27回を数え、96人の参加者で指揮法講座（特別講師 工藤俊幸氏）、合唱講座（特別講師 新実徳英氏）、声楽講座、と定着した内容で、指揮・指導者を中心とし継続的な参加者とともに新しい参加者も増え、今年も充実した内容となった。指揮者への具体的な指摘と同時に前進面の評価、作曲家本人による巧みに引き出される合唱表現の魅力、また、理論特別講座としてお招きした小村公次氏の講演は、「うたごえ」の創造的内容を、選曲、表現の経過を分析しつつ課題も明らかにし、大変示唆に富むものとなった。新しい指導者・リーダーの育成を視野においた合唱団としての積極的な参加運動も今後さらに大切である。

北海道や九州、東海など、各地での講習会、うたごえ学校、等が大小の規模で開かれ、専門家による声楽指導や合唱指導、音楽創造への協力なども行われて、地域祭典の成功やサークル・合唱団の創造的な力にもなっている。大阪指揮研究会、東京指揮考座、なども継続的に行われ、関西合唱団日曜講座なども貴重な学び合いの場として多くの経験と成果を生み出している。また、団内指揮研究会、個人発声教室、なども演奏普及の担い手を増やす上で重要である。北海道では道祭典に参加している各合唱団の指揮者が一堂に会して新たな勉強会を実施、悩みを共有し、課題を見つけ、今後に繋がる成果を持ち帰った。こうした交流と学ぶ機会には指揮・指導者懇談会の一つの形態として今後さらに継続的に追求したいものであり、ネットワークの実現なども併せ、各協議会、ブロック等で様々な模索し実現していくことが重要である。

日本のうたごえ合唱団2012は約150人で結成され、新春合唱練習と東西の練習会のほか、大阪で吹田「おらが町コンサート」に120人で出演、長野県諏訪では「よみがえれふるさと諏訪音楽会」が企画されて99人で出演、日本のうたごえ全国交流会＝広島ではピースウェー

ブコンサートに120人で出演、それぞれ優れた演奏を示した。全国協議会の提唱のもと、個人の自主的な参加による全国合唱団だが、実践的な演奏教育の場としても得るものは多い。この合唱団の果たしている役割や位置づけなどについて、あらためて考え合うことも大切な時期に来ている。

うたごえ運動の創造理念、何を、誰に向かって、どう歌うか、など合唱発表会講評や季刊「日本のうたごえ」、うたごえ新聞での専門家の指摘等にも示唆に富む内容が多い。これらを積極的に活用すること、また、「うたの学校」「研究生制度」など独自の教育活動を展開して次代に引き継ぐことも重要である。専門家による合唱指導、指揮なども多く見られる中、さらに協力、共同を進めるとともに、うたごえ運動における創造の特徴、良さ、なども明らかにし、幅広く学習を深めていく必要がある。

方針（7）青年サークルづくりを積極的にすすめて、次代を担う多くの青年を迎える。

「青年のうたごえ」

「青年のうたごえ祭典＝大阪くうたごえ王に俺はなる」に100人超す青年が参加、朝鮮や韓国の若手との共演ステージを生み出し、地元のうたごえ協議会を中心とするうたごえメンバーと共に歌い交わすことが出来た。地元青年サークル「ブルースカイ」を中心に実行委員会を立ち上げ、仕事や家庭の事情で取り組めなくなるメンバーが生まれるなどの困難もあったが、新しい青年メンバーも加わり、大きな経験や繋がりを生み出すことが出来た。

祭典で選曲された「一番音頭」は平和行進のテーマソングとしても取り上げられ、歌い歩き、好評を得た。

青年が広島の全国交流会で結集して歌える場所として合唱発表会・交流の部に「全国青年のうたごえ」として初めて出演を取り組み、発表曲、

指揮者などで青年祭典と連動した。

全国交流会のなかでは、青年のうたごえ喫茶「青年うた茶」、大熊啓さん講師の「青年座談会」、「青年交流会」なども開催して、いくつかの結集出来る場所をつくりあげた。これらを青年学生部として組織的に取り組み、一定の成果を得ることが出来た。

福井での青年交流会を契機に、東北からの青年学生部員参加で、東北との情報交換を密に行えるようになり、今年の実組みのなかでも大いに力を発揮してもらうことが出来た。

原水爆禁止世界大会と Ring Link Zero の取り組みのなかでは、ゲストのクミコさんとともにクミコさんが震災を経験して作った新曲「きつとツナガル」を地元広島のうたごえ青年、高校生や学生など多くの青年たちと歌い交わすステージを実現できた。

研究生・教室生制度を継続して取り組み、青年層と繋がっている合唱団もあり、団の被災地支援などの積極的な演奏活動の取組に加え、県のうたごえ祭典の青年合同ステージへの運動でも中心的な役割をこなしている青年団員もいる。

一方で、うたごえに結集している青年層は少なく、また、各地のうたごえ協議会に加盟していない青年サークルもある。協議会や各地域の加盟サークルとも連携する機会を多くつくり、参加する青年が互いに成長しあつて、これからのうたごえの未来に向けて進んでいくことが大切である。

方針(8)サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくりをすすめる。また、ブロックの連帯活動を活発にするため、ブロック連絡会づくりを強める。

「会員拡大・サークル建設・協議会建設」

音楽会・演奏会での企画で「共に歌う企画」を取り組む中で会員拡大

につなげたり、日常の演奏活動、うたごえ喫茶などで常に会員拡大を意識的に追求しているなかで会員が増えている例が多い。団員拡大を目標を持って職場・団体訪問をした合唱団、演奏会を取り組む中で若い労働者と共にステージをつくり運動をつなげている保育のうたごえ、条件に見合った練習環境をつくり、団員拡大につなげている経験に学びたい。

うたごえ喫茶を契機にサークルが誕生したり、年金者組合や新婦人の会などの団体が会員の要求からサークルが生まれている例が数多くある。歌のリーダー、伴奏者、運営リーダーの援助の要望にこたえることで、さらに大きく広がる可能性が見える。

合唱発表会運動や地域祭典、分野別祭典を取り組む中で、協議会への加盟の働きかけを積極的に行い、新しく18団体が協議会に加わった。

運動の継続的発展のために、協議会の拡大強化は重要であり、ブロックの連帯活動とあわせ体制を確立し、意識的、系統的に取り組む必要がある。

〈ブロック活動〉

北海道は持ち回りの祭典開催を柱に、合唱講習会、創作合宿、指揮者講習会などを開き、その積み重ねが各地域の活動に反映している。

東北ブロックは交流会を青森で開催。開催地では市民の参加も呼びかけ、震災からの復興、原発を許さない思いを歌い交わした。また、被災地支援のとりくみなどを議題に東北ブロック会議を開催、連帯した取り組みの力になっている。

関東・東京ブロック交流会は、東京が初めて担当となり、伊豆大島で開催した。町長を先頭に、観光協会などの協力も得、学びと交流、町おこしの取り組みとなった。毎月のブロック会議では各都県の活動交流とうたごえ新聞読者拡大の取り組みに多くの時間を割き、この議題の時には三輪編集長も参加して論議を深めている。全都県からの参加が課題である。

信越ブロックは新潟で開催された東日本合唱講習会を連帯して成功さ

せた。

北陸ブロックは各県で合唱発表会を開催することになった以降、ブロック交流会を独自に開催、12年度は富山で交流を深めた。

東海ブロックは三重で交流会を開催、反原発の取り組み経験を学ぶうたう取り組みとなった。

関西ブロックは毎月のブロック会議でその時々を取り組みを交流、連帯、援助しあう関係が出来ている。全国講習会の企画・組織、全国交流会での運営スタッフ配置、各府県の合唱発表会への審査委員派遣やうたごえ新聞読者拡大の取り組みなどで成果を上げている。

中国・四国ブロックは担当常任委員が機会に応じ情報を収集し、うたごえ新聞ニュースなどで返している。

九州ブロックは九州のうたごえ連絡会として体制も確立、各県持ち回りの九州祭典開催を柱に、講習会も開催、協議会が確立していない県も含めた連帯の場となっている。

「うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」読者拡大」

運動の機関紙として、社会の状況を切り取り、全国の経験から学び、次の運動の指針となる方向を指し示し、また、作品づくり、音楽創造にも役立てられる大切な役割を果たしているうたごえ新聞、音楽文化ジャーナルとして、多くの人が楽しみ、うたごえ運動に理解を示し、支え手になってくれるうたごえ新聞を、よく読み、より魅力的な新聞につくり、広げる活動を年間を通じて取り組んだ。

うたごえ新聞をすべての会員が購読し活動の力にしていけることを柱に、毎週のニュースをブロック常任委員の責任で発行する体制を取り、読者拡大に取り組んできた。

東京、愛知、京都、大阪では独自のニュースが発行され継続した読者拡大につながっている。

大阪はおおさか祭典を成功させる一番の保証としてうたごえ新聞読者の拡大を掲げ、着実に前進している。

季刊「日本のうたごえ」は156号の総会特集号の特別普及に取り組

み、定期購読以外に約650冊が普及された。記事の豊かさも大きな要因の一つで徐々に定期読者も増えているが、運動を発展させるための知的財産としての活用、運動の担い手の成長を助ける栄養としてすべての会員の購読をめざす取り組みは引き続き重要である。

方針(9)「うたごえ運動の中で、「郷土のうたと踊り」の位置づけを高め郷土芸能の掘り起こしと継承、全国の活動の経験交流等を活発にし、全国講習会を充実させる。」

「郷土のうたと踊り」

広島での全国交流会で、「郷土芸能交流の部」を設け、東京、愛知、奈良、兵庫、高知から8団体が出場、豊かな内容での演奏交流が実現した。この部門開催の意義を深めあい、参加組織につなげる点での取り組みの弱さもあり、参加団体、観客が限られたことは課題である。

毎年開催している東日本郷土講習会に加え、西日本郷土講習会も開催された。

東日本郷土講習会は「復興から故郷を守る郷土の歌や踊り太鼓を生きる力に」を掲げ81人の参加で成功した。講習演目の「石狩太鼓」「かつぎ桶」「かりゆしの夜(エイサー)」は第15回「江戸やっこ祭り」の合同演目として演奏された。

西日本郷土講習会は72人の参加で、「鹿島の天狗」「木遣りにぎわい太鼓」「津軽じよんから踊り」「篠笛」の講習が行われ、「木遣りにぎわい太鼓」は、「兵庫のうたごえ祭典＝神戸」の郷土合同として演奏された。

郷土芸能の交流を継続して取り組んでいる「江戸やっこまつり」や、数年ぶりに開かれた「西播和太鼓フェス」にうたごえの郷土芸能チームも積極的に参加、成功の力になると共に、郷土芸能を柱にした演奏会を合唱団と共に成功させている例もある。

全国交流会「Peace Wave Concert」のオープニングの郷土芸能プログラムを初め、各地の祭典、合唱発表会、交流会で郷土芸能の演奏が行われている。

「1・17阪神大震災・鎮魂と希望の太鼓」が継続され、3・11東日本大震災の復興支援で被災地での演奏、全国各地で支援活動、支援募金を取り組まれた。被災地の太鼓チームが復活し共に演奏するというドラマも生まれている。

郷土部会の活性化、情報の共有、ネットワークづくりは今後も大切である。

方針（10）世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。

〔国際交流〕

韓国との音楽交流は引き続き活発である。1999年から継続している5・18光州芸術祭参加の取り組みに対し、この間その中心的役割を果たしてきた小林光さんが光州市から表彰を受けた。「仁川市民合唱団平和の風」は、12月に16人が来日、「働く人たちの楽しいコンサート」に出演、日航争議団と一緒に演奏し、広島の全国交流会にも代表2人が参加、交流を深めている。ハンギョレ統一文化財団「平和の木合唱団」は60人が来日し、在日コリアンの合唱団と共に「歓喜の翼コンサート」を成功させた（埼玉合唱団主催）。5・18光州民衆抗争を題材にしたミュージカル「華麗なる休暇」（13年5月31日、6月1日東京）公演に向け、労働運動、国際友好運動、文化運動が共同して取り組む「成功させる会」が組織され準備が進んでいる。青年のうたごえ祭典では韓国の来日中の少年少女合唱団が出演し、在日コリアン高等部の青年たちと一緒に歌うステージも実現した。

中国との交流としては、日中友好協会東京都連60周年・日中国交回

復40周年の公演と音楽の夕べで「再生の大地」（大門高子作詞・安藤由布樹作曲）が全曲初演された。南京虐殺を否定的に発言する河村名古屋市長のお膝元で、名古屋・南京友好都市35周年記念音楽会が開かれ、「ぞうれつしゃがやってきた」（中国語バージョン）「紫金草物語」をはじめとする日中の音楽交流が行われた。

日米桜百周年に100人の「五色桜物語合唱団」が訪米演奏。ロシアでは、ボルガクルーズやボルゴグラードとの音楽交流が行われた。

2013年方針

すべてのいのち輝かせて 未来への希望をうたおう！

今年、うたごえ運動が始まって65年の節目を迎える。また、運動の創始者である関鑑子没40年でもある。

震災復興・原発ゼロへ、「自分も何かしたい、力を合わせてこの状況を変えていきたい」という変革のエネルギーが、様々な支援活動や街頭での行動を生み出している。このエネルギーと結び合って、運動の一つの節目であり、時代の激動がさらに大きくなっていくことが予想されるこの年、希望ある時代への願いをこめ、うたごえをより豊かに響かせていくことが求められる。

運動の中でつくり出してきた「うたごえは平和の力、生きる力、うたはたたかいたともに」をさらに高く掲げ、人びとの願いや思いを歌にして多くの人に届ける普及・演奏を展開し、その広がりやうたごえの組織拡大につなげ、次代を担うリーダーづくりや学習・教育を旺盛に展開したい。

そうした活動の集約の場として、11月2日〜4日に開かれる「65周年記念日本のうたごえ祭典・おおさか」を全国の連帯で大きく成功させ、運動70周年へのスタートの年としていきたい。

そのために、2013年度を以下の活動方針ですすめたい。

方針〈1〉生きる力となる音楽を輝かせ、平和憲法を守り、活かす。共に生きる町づくり・地域づくり、職場づくりのうたごえを創り広げる。

①東日本大震災被災地への支援と、復興・再生、原発ゼロの社会をめ

ざす思いを歌にして広げる。

②「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、多種多様な形態で歌う喜びをひろげる。

・平和のうちに生き働くことへの思いを歌にして、地域、職場からうたごえを起こす。

・全市区町村での「みんなうたう会」実現へ、計画を持って実践する。

③多くの人が「こぞうたごえを」愛唱歌を創りだす創作運動を活発にする。

・新しい創り手を生み出し、作品交流を活発にする中で「みんなできり歌う運動」を広げる。

・全国創作講習会（創作合宿）を多くの参加者で成功させる。オリジナルコンサートの実現とともに、「オリジナルソングブック」の活用をさらにすすめる。

方針〈2〉合唱発表会運動を進展させ、地域・分野のうたごえ祭典を成功させる。

全国の運動の総力を挙げて「65周年記念日本のうたごえ祭典・おおさか」を成功させる。

①合唱発表会を地方、産業別、全国とも活発にし、歌う活動の実際を交流し、学び合い、創造活動の前進をめざす場にする。

・合唱発表会を協議会活動の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じて交流し学び合うという発表会の原点をいっそう輝かせる。広く参加団体を呼びかけるとともに、開催の仕方や運営を工夫し、豊かな交流ができる合唱発表会づくりをめざす。

・合唱発表会参加団体を1500団体に、未開催県の今年度開催計画を持つ。

②地方祭典の全都道府県開催をめざし、うたごえを起こし新たな前進へ、地域や都道府県単位、産業別・階層別の祭典を活発にする。

③運動の様々な展開を旺盛にすすめる、そのすべての成果を「うたごえ

65周年記念日本のうたごえ祭典」に集約し、全国の力を寄せ合って大きく成功させる。

方針〈3〉 青年サークルづくりを積極的にすすめる、青年の要求と結び合い、多くの青年を迎える。

- ①サークル・合唱団で青年を迎える目標を意識的に持つ。
- ②団体・分野を越えた青年ネットワークをつくり、青年サークルづくりにつなげる。
- ③「青年のうたごえ祭典」の持続的開催に努力し、全国での若い世代との結びつきを追求して「65周年記念日本のうたごえ祭典」につなげる。

方針〈4〉 65周年の歴史に学び、その理念を受けつぎ発展させる学習・教育活動をすすめる、次代を担うリーダーを計画的にそだてる。

- ①運動65周年・関鑑子没40年の今年、それぞれのサークル・合唱団・協議会で教育を日常の練習や活動の中で行うことを重視し、演奏・創造活動を豊かに発展させながら、批評活動や運動の理論活動をすすめる。前進への力にしていく。
- ②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を積極的に活用するなど、学習・教育活動を活発にし、次代を担うリーダーづくりを計画的にすすめる。
- ③各種全国講習会へのサークル・合唱団からの参加を強め、各協議会やブロック等で指揮者・指導者の交流を活発にし、そのネットワークづくりをすすめる。
- ④関鑑子没40年を期して出版される「グレート・ラヴ関鑑子の生涯」(三輪純永著)の普及と学習を意識的にすすめる。

方針〈5〉 うたごえ運動の魅力・歌の広がりやうたごえ新聞読者へと

つなぎ、「うたごえ発ジャージャーナル」であるうたごえ新聞をいつそう輝かせ、読者拡大につなげる。

- ①全国の多彩な活動を豊かに交流し、運動の輪、読者の輪を広げるために、「読み・作り・広げる」活動を強め、引きつづき「うた新フォーラム」の全都道府県開催(未開催県の意識的開催)、「うた新まつり」などを計画する。

②サークル・合唱団・協議会などで、うたごえ新聞を真ん中に、紙面の感想や記事への要望を語り合い、記事をつくり、うたごえ新聞を身近に感じ合いながら運動をすすめる力・新聞を広げる力にする。

③創刊55周年に達成したうたごえ新聞読者を早期に回復し、最高時のうたごえ新聞読者をめざしてさらに広げる。

④季刊「日本のうたごえ」は、運動づくりのテキストとしての位置づけを高め、積極的に活用し、会員の全員購読をすすめることで倍加をめざす。

方針〈6〉 サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくりをすすめる。地域ブロックの連帯活動を活発にする。

- ①サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やす。
- ②合唱発表会参加団体や協議会加盟団体、うたごえ新聞と季刊「日本のうたごえ」の読者を増やすことをサークル・合唱団で討議し、目標を持って計画的に増やしていく。
- ③加盟団体500団体をめざす。うたごえ協議会のない県については、うたごえ協議会の確立へ計画を持ってすすめていく。

方針〈7〉 多くの人に喜ばれるうたごえ出版物をつくり、ひろげる活動をすすめる。

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものに

し、魅力ある企画製作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする。

・「2013メーデー・平和歌集」、CDを活用し、多くの人にうたごえを届ける。

・みんなうたう会、うたごえ喫茶の活性化、拡大のために「うたごえ喫茶ソングブック828」（歌詞集、伴奏集）のさらなる普及と運用に力を尽くす。

・サークル・合唱団の演奏活動と結んだCD、楽譜などを出版し普及する。

・運動65周年、関鑑子没40年の記念出版物を多いに広め、学ぶ。

②楽譜のネット配信など、インターネットを活用した取り組みで新たな層へのうたごえ普及の力にする。

方針〈8〉うたごえ運動の中での「郷土のうたと踊り」の位置づけを高め、郷土芸能の掘り起こしと継承、全国の活動の経験交流などを活発にし、全国講習会を充実させる。

方針〈9〉世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。

方針〈10〉65周年での運動をすすめる中で、70周年にむかう運動計画を立案していく。その柱として、「日本のうたごえ祭典」の開催計画を持つ。

おわりに

「うたごえが現在の日本人の心もちを表現するものであり、心を結び

合わせるものであり、お互いの励ましになるものであり、勇気をよびますものである限り、魂から魂へ伝わっていく。今日うたごえのないところもきつと明日はうたごえがきこえるようになるう」関鑑子さんの1954年5月の言葉である。

うたごえ65周年となるこの年、「私たちに何が出来るのか」「何のために、誰に向かって」を常に問いかけ、日々の暮らしに渦巻く思い、明日への希望を込めた歌を創り、歌いひろげ、人と人の心をつなぎ生きていく力としていきたい。

東日本大震災での被災から復興へと立ち向かう人たち、放射能汚染から故郷をかえせと声を上げる人たちに、心寄せた歌を響かせよう。「原発なくそう」と行動をすすめる人々と、心つながり歌を響かせよう。自由と民主主義、生き働く権利をまもれとたたかう人々と、明日への勇気が沸く歌を響かせよう。憲法9条をまもれと、平和への切実な願いをつなぎあう歌を響かせよう。すべてのいのち輝かせて、未来への希望をうたおう！

◆2013年主な日程予定

◎日本のうたごえ祭典・おおさか
11月2日(土) ～ 4日(月) 大阪

◎うたごえ祭典・交流会
東京・関東のうたごえ交流会＝埼玉

4月6日(土) ～ 7日(日)

私鉄のうたごえ祭典

6月23日(日) 大阪

青年のうたごえ交流会

6月 静岡(予定)

東海のうたごえ交流会

7月6日(土)～7日(日) 愛知

医療のうたごえ祭典

7月 神奈川

全国教育のうたごえ祭典＝とやま・高岡

8月16日(金)～18日(日)

東北のうたごえ交流会＝蔵王

8月31日(土)～9月1日(日) 山形

北海道のうたごえ祭典＝いわみざわ

9月7日(土)～8日(日)

郵便のうたごえ祭典

9月 東京

電通のうたごえ祭典

9月21日(土)～22日(日) 大阪

自治体のうたごえ交流会

9月23日(月) 奈良

信濃のうたごえ祭典

9月29日(日) 長野

九州・国鉄のうたごえ祭典

10月12日(土)～13日(日) 鹿児島

北陸のうたごえ交流会

10月14日(月) 石川

港湾のうたごえ祭典

6月～10月 愛知

千葉県うたごえフェスティバル

12月1日(日)

保育のうたごえ交流会

未定

◎全国講習会

東日本合唱講習会

4月20日(土)～21日(日) 東京

東日本郷土講習会

4月27日(土)～28日(日) 東京

西日本合唱講習会

5月4日(金)～5日(土) 大阪

西日本郷土講習会

5月5日(土)～6日(日) 兵庫

全国創作講習会

5月10日(金)～12日(日) 山形

全国合唱指揮・指導講習会

6月14日(金)～16日(日) 松本

◎全国大会・集会

3・1ビキニデー集会

2月27日(水)～3月1日(金) 静岡

原水爆禁止世界大会・広島

8月3日(土)～6日(火)

原水爆禁止世界大会・長崎

8月7日(水)～9日(金)

日本母親大会

8月24日(土)～25日(日) 東京

日本高齢者大会

9月19日(木)～20日(金) 三重

日本平和大会

11月15日(金)～17日(日) 岩国